

平成26年度 徳島県立城北高等学校 学校評価 総括評価表

		自己評価		学校関係者評価	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見
	全校レベル	評価指標	評価指標による達成度	総合評価・所見	次年度への課題と改善方策
生徒の視点に立った「わかる授業」と家庭学習の充実	1 学習指導の充実 ・生徒の学習意欲を喚起し、主体的に学習する習慣の定着を図る。 ・基礎・基本の確実な定着と応用力の育成及び個性を生かす教育の充実を図る。	<p>[教務課]</p> 1) 単位制を効果的に生かした少人数授業、選択授業を設定する。生徒の評価A <p>[進学課]</p> 1) 毎月、学習時間調査を行い、年間平均を1・2年生ともに2.0時間以上とし、0時間の生徒を無くす。 2) 模試分析会を年間3回以上実施する。 3) 早朝補習を年間100回以上実施する。 <p>[学年]</p> 1) 早朝補習への出席を喚起し、出席率90%以上をめざす。 2) 「日々のプリント」により、基礎・基本力を定着させる。また自主学習時間を確保する。	<p>[教務課]</p> 単位制の利点を活かし、生徒の進路や希望に沿った授業を可能な限り展開した。生徒・保護者および教職員の評価もAであった。 <p>[進学課]</p> 1) 学習時間年間平均 1年生・1.9時間、2年生・1.9時間 2) 模試分析会 1.2年生(4回)、3年生(17回) 3) 早朝補習・・・97回実施 <p>[学年]</p> 1) 早朝補習は1学期29回、2学期は41回実施。出席率は1年1学期97.4%、2学期95.6%、2年1学期90.3%、2学期89.9%となり、2学期までの合計では93.3%の出席率であった。欠席の多い生徒に対しては、家庭への連絡や三者面談で出席を喚起した。 2) 定期考査日程発表の日から考査終了までを除きほぼ毎日出題した。30分から1時間で解くことのできる内容にし、基礎・基本力の定着を図った。	<p>[教務課]</p> (評価)A 予定通り授業を展開できた。 <p>[進学課]</p> (評価)B 家庭学習時間が少ない。家庭学習の習慣を付けさせる必要がある。早朝補習に加え希望者に土曜補習を実施した。1年(9回延べ620人)2年(9回延べ720人) <p>[学年](評価)B            早朝補習において、1・2学年合わせた出席率は93.3%であったが2学年の2学期は89.9%であり目標に届かなかった。「日々のプリント」は各学年においてほぼ計画通り実施することができた。  <p>[学力向上委員会](評価)A            見学時数及び、職員「公開授業の効果」等への評価も好転した。  <p>[学年](評価)B            「なぜば成るノート」の提出は1学期にクラスによってばらつきがあったが、学年会で意思統一を図り、2学期はほぼ全員が提出するようになった。</p></p></p>	<p>[教務課]</p> 生徒の科目選択希望に沿った授業を、限られた教員でいかに展開をしていくか、また、授業変更のしやすい時間割編成をどう行っていくかが課題である。 <p>[進学課]</p> 家庭学習習慣を身につける必要がある。土曜補習を計画的・組織的に効率よく実施することが必要である。 <p>[学年]</p> 早朝補習への出席率は1,2年生合算すると目標に到達できたが、2学年2学期は89.9%であった。早朝補習への出席をさらに喚起するとともに、生活指導も併せて行っていく必要がある。 <p>[学力向上委員会]</p> 学力定着を促す授業の在り方や取り組みを、学年・教科を超えた枠組みで検討したい。
	下位組織レベル	<p>[進学課]</p> 1) 「学習の日」を設け、学習習慣を身に付けさせる。 2) 成績分析を行い、職員会議・教科会・学年会で具体的な方策を検討し、学力向上を図る。 3) 欠席者への連絡を継続的に行う。授業と補習を連携させ、基礎学力と学習意欲の向上をはかる。 <p>[学力向上委員会]</p> 1) 全校で公開授業を実施し、年間平均3回以上見学する。 <p>[学年]</p> 1) 「なぜば成る」ノートで確認し、一人ひとりに徹底させる。	<p>[進学課]</p> 1) 「学習の日」年間9回実施 2) 7・8・12・3月の職員会議において資料提示とともに、分析会を実施。 3) 学年主任・担任を通して保護者へ適宜連絡。 <p>[学力向上委員会]</p> 1) 2回の公開授業期間、研究授業参加等による見学研修が、平均で4回以上になった。 <p>[学年]</p> 1) 早朝補習から朝のSHRの間や帰りのSHRに記入させ、翌朝までに正副担任でチェックし、基本的な生活習慣の習得や学習時間の確保に努めた。	・2年の学習面での中だるみがあるようだが、生活全般を含めて引き締める指導を願う。 ・部活動への集中が、学習に向かえない要因になる場合もあるだろうが、部活動顧問は学業との両立を指導し続けるべきである。 ・学習時間も指標だが、何をどう学習するか、その内容が大切。目的意識をもたせて、家庭学習の在り方から教えてやってほしい。	

平成26年度 徳島県立城北高等学校 学校評価 総括評価表

重点課題	重点目標 全校レベル	自己評価		学校関係者評価	
		評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	次年度への課題と改善方策
		評価指標	評価指標による達成度	総合評価・所見	
生徒個々の進路希望を実現するための情報提供及びキャリア教育の推進	2 進路指導の充実 ・進路への興味関心を喚起し、将来を見据えた望ましい職業観・勤労観を養う。 ・生徒の多様な能力、適性、進路希望に応じた、系統的・組織的な進路指導に取り組む。	<p>[進学課]</p> <p>1) 大学等による出前授業及び大学での公開授業を実施するとともに、校外での進路相談会に参加する。</p> <p>2) 進路・小論文などの講演会を5回以上実施する。</p> <p>3) 「進路だより」を年間20本以上発行する。進路情報誌を年間10冊以上配布する。</p> <p>[就職課]</p> <p>1) 公務員説明会および自衛官説明会を各1回以上実施する。</p> <p>2) 県主催のインターンシップの参加を広報する。また、2年生対象に本校主催のインターンシップを実施し、15人以上の生徒を参加させる。</p> <p>3) キャリア教育推進させるための研修会を1回以上実施する。</p>	<p>[進学課]</p> <p>1) 出前授業 24講座(8月1日、1、2年生)と、徳島大学で城北生向けの授業を実施していただき約90名参加。(1月22日)、業者主催の進路説明会に3年生全員で参加。</p> <p>2) 1年生・・・4回、2年生・・・4回、3年生・・・2回</p> <p>3) 「進路だより」22回発行、進路情報誌・・・20冊以上配布</p> <p>[就職課]</p> <p>1) 公務員説明会及び自衛官説明会を予定通り実施。警視庁から要請があり、警視庁採用ガイダンスを実施。</p> <p>2) 本校主催のインターンシップを7月末から8月中旬に実施。19名の生徒が参加した。</p> <p>3) キャリア教育支援講演会を1、2年対象に実施した。</p>	<p>・中学校では2年で職場体験をし、3年では面接準備のためもあるが、多くの生徒が曖昧である。高校では、早い時点からのキャリア教育が必要だと思う。</p> <p>・生徒の進路や学習の動機づけには、できるだけ生徒の目線に近いところから、例えば卒業生等が自分の体験を成功も失敗も含めて話してやったら、真剣に聞くのではないかな。</p>	<p>[進学課]</p> <p>出前授業を更に充実させる。大学や進路説明会に足を運び、学習へのモチベーションを上げるとともに、それを継続させる。</p> <p>[就職課]</p> <p>就職希望者に対しては担任との連携を密にし、1年及び2年次から職業意識を持たせる指導をした。卒業だけでなくマナーや一般常識も必要なことを指導したい。</p>
	下位組織レベル	活動計画	<p>[進学課]</p> <p>1) 出前授業の中で、学部・学科の紹介や職業との関連性にも話題を広げ仕事に夢や希望をもたせる。</p> <p>2) 模試や小論文のデータを基に、外部講師からアドバイスを受け日々の学習に生かす。</p> <p>また、生徒及び保護者に進学情報誌や「進路」「進路だより」を適宜配布し、情報を提供する。</p> <p>[就職課]</p> <p>1) 6月に公務員説明会、7月に自衛官説明会を実施する。ハローワーク提供の高校向けインターネット求人情報を最大限に利用する。</p> <p>2) 夏休み期間中に本校主催のインターンシップを実施する。実施前には生徒の希望する職種に合う事業所を開拓する。</p> <p>3) キャリア教育を推進するため希望生徒対象に研修会を実施する。</p>		

自己評価					学校関係者評価		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	次年度への課題と改善方策	
	全校レベル	評価指標	評価指標による達成度		総合評価・所見		
規範意識の一層の向上とルールを守りモラルやマナーを大切にす心、いじめを許さない心の育成	3 生徒指導の充実 ・基本的生活習慣の確立を図り、節度と品位のある礼儀正しい生活態度を育成する。 ・生徒の生活状況に応じた支援を行うとともに、安全教育を徹底する。 ・いじめの早期発見、解決に努める。	[生徒指導課] 1)モラルやマナーの指導を通じ、学校全体で社会規範意識の育成に努めている。 2)交通安全教育を前年に比べ20%削減(H25-24件) 3)いじめを許さない指導・取り組みへの 生徒・保護者の評価A。	[生徒指導課] 1)モラルやマナーの指導を通じ、学校全体で社会規範意識の育成に努めている。保護者・生徒・教員共に 評価A 「遅刻指導・入室許可証について」遅刻指導については生徒の実態や保護者の事情により弾力的に運営した。生徒・職員共に 評価A 2)「交通安全教育に対し、学校を上げて取り組んでいる」保護者・生徒・教員共に 評価A 12月末現在、登下校時の交通事故19件。 3)いじめを許さない指導・取り組みへの評価は、保護者と生徒全体ではAだが、生徒1・2年ではBとなった。		[生徒指導課] (評価)B 遅刻者の指導については、日々の立哨指導・駐輪指導を通じて指導の成果がみられる。交通事故については増加傾向にあり重大な事故につながる可能性がある。自転車マナーについては、規範意識の向上の継続的な指導が必要である。言葉遣いや職員室での態度については非常によくなっている。携帯電話の使用状況もマナーを守って使用できている。いじめについては、直接的なものではないが、いじめにつながる言動等があるため注意深く観察する必要がある。	・朝、小学校前で立哨している、多くの城北生が挨拶してくれる。マナーの指導ができていと思う。 ・かつて登校時の城北生の自転車運転マナーについて近所から苦情が多かったが、最近はとてまもなくなくなった。携帯所持運転が少なくなつて、マナーが向上してきた。 ・近所に大型店舗もでき、車が増えたので、事故には十分に注意して欲しい。	[生徒指導課] 遅刻常習者に対しての効果的な指導が必要である。自転車のマナーについても継続的で地道な指導が必要である。交通関係だけでなく、日常生活全般にわたる法令・マナーの遵守意識を育成することが必要である。携帯電話・スマートホン等に多くの時間依存している生徒の生活習慣の改善が必要である。人権教育課や担任と連携して、相手を思いやる態度の育成に取り組む必要がある。
	下位組織レベル	活動計画	活動計画の実施状況				
	[生徒指導課] 1)マナー指導の強化 ①頭髪服装指導の強化 ②言葉遣いや職員室での態度を改善 ③校内における携帯電話の使用方法的改善 2)安全教育の徹底 3)いじめ調査アンケートの実施と活用	[生徒指導課] 1)学校行事や学年集会の際に実施するとともに、日常的に随時行う。 2)交通安全講話の実施 ①学期ごとに一斉指導を実施 ②クラスごとに年1回の交通安全ホームルーム活動を実施 ③学年集会等での注意喚起 3)各学期末に「いじめ調査アンケート」を実施し、現状を把握するとともに担任面談等に活用する。	[生徒指導課] 1)全教職員の共通理解を図り、指導の統一を図った。 ①遅刻者の入室許可証の記入はほぼ徹底できた。 ②校内における携帯電話の使用状況はかなり改善された。 2)交通安全講話を自動車教習所を招いて実施した。 ①全教職員による交通一斉指導を4・9・1月と3回実施した。 ②交通安全についてのホームルーム活動を1回実施した。自転車整備点検は4月10日(木)に実施した。 ③全教職員の協力により学期当初のほぼ計画通り実施できた。 3)いじめ調査は7月、3月(予定)に実施し、結果を担任に連絡した。				

平成26年度 徳島県立城北高等学校 学校評価 総括評価表

重点課題	自己評価				学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と改善方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評価			
	全校レベル	評価指標	評価指標による達成度	総合評価・所見		
豊かな心を育み、幅広く調和のとれた人材の育成と人権ホームルーム活動の充実	4 人権教育の推進 ・教育活動全体を通して人権についての知識を深め、豊かな人間性や互いに尊重する態度を育成する。 ・人権尊重の精神の積極的な啓発に努め、人権意識の高揚を図る。	<p>[人権教育課]</p> <p>1)生徒の人権ホームルーム活動に対する評価A。 2)人権啓発紙の年間発行回数を3回以上。 3)「人権関連学校行事」に対する生徒の評価A。 4)各教科における人権学習・人権教育を計画的に実施。 5)生徒対象の人権教育講演会などを年2回以上実施。 6)全体の人権教育職員研修会を年間3回以上実施。</p>	<p>[人権教育課]</p> <p>1)生徒の人権ホームルーム活動に対する評価A 2)人権啓発紙を3回発行。 3)「人権関連学校行事」の生徒の評価A。 4)各教科における人権学習・人権教育を計画通りに実施。 5)生徒対象の人権教育講演会を全体2回、1・3学年各1回実施。 6)全体の人権教育職員研修会を年3回、学年別の研修会を1学年4回、2学年4回、3学年4回実施。教員評価A。</p>	<p>[人権教育課] (評価)A 年間計画のほぼ予定通りに実施することができた。人権集会をはじめ、充実した内容のものも多かった。また今年度は市人研大会を本校で開催したこともあって、充実した教育内容を実施・蓄積することができた。</p>	<p>[人権教育課] 近年の新しい人権課題(インターネットやSNS、セクシュアル・マイノリティ等)への取り組みも大きな課題となっている。また、長年続く大島青松園との交流事業のあり方も課題となる。生徒が中心となる行事などの数を増やし、生徒が関心の持てる教材や教育方法の開発もはかり、内容の充実をはかっていきたい。</p>	
	下位組織レベル	活動計画	活動計画の実施状況			
	<p>[人権教育課]</p> <p>1)HR活動の充実 2)啓発企画紙の充実 3)人権集会・人権旬間へ向けての取り組みの充実 4)各教科における人権学習・人権教育の推進 5)生徒対象の人権教育講演会の実施 6)人権教育教職員研修の充実</p>	<p>[人権教育課]</p> <p>1)各クラスの状況に合わせて、資料を探し選択し、展開を工夫する。 2)人権啓発紙を学期に1回以上発行する。 3)人権集会・人権月間に向け、4月から取り組み、内容の充実した展示を行う。 4)各教科において、年度当初に立てた計画に従って人権学習・人権教育を実施する。 5)人権教育に関する講演会・映画会を年2回以上実施する。 6)全体の人権教育教職員研修を年3回、学年別の研修会を各学年年1回以上実施する。</p>	<p>[人権教育課]</p> <p>1)年間計画に従い、通年各クラスの状況に合わせて資料を探し選択し、展開を工夫できた。 2)人権啓発紙を年間3回発行。 3)人権集会に向けて、校内放送や保護者啓発を実施した。展示は人権委員会によるポジティブ・ポスト=イット・キャンペーンを実施した。(10月)。 4)各教科において、年度当初に立てた計画に従い、実施できた。 5)人権集会を年に2回(6月と10月)、1・3年の学年別人権問題講演会(5月・2月)を各1回ずつ実施した。 6)全体の人権教育教職員研修を年3回(4月・6月・8月)、学年別の研修会を各学年年人権ホームルーム活動の約1週間前に実施。</p>			

重点課題		自己評価			学校関係者評価		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	次年度への課題と改善方策	
	全校レベル	評価指標	評価指標による達成度		総合評価・所見		
部活動のさらなる活性化を図るとともに、生徒会や各種委員会の諸活動を充実する。	5 特別活動の充実 ・生徒の主体的運営を基本として、各種活動に取り組むことのできる学校行事、生徒会活動の充実を図る。 ・部活動を充実・活性化させ、生徒の精神面、体力面での成長を図るとともに、団結心や協力を育成する。	<p>[特別活動課]</p> <p>1)部活動入部率85%以上、部活動の教育貢献度について、教職員・保護者・生徒の評価A</p> <p>2)生徒会新聞を発行し、生徒会や各種委員会の活動をPRする。生徒会活動・各種委員会活動について、教職員・生徒の評価A</p> <p>3)球技大会・城北祭について教職員・生徒・保護者の意見を取り入れ活性化と効率化を図る。教職員・生徒の評価A</p>	<p>[特別活動課]</p> <p>1)部活動入部率は90%を超え、部活動の教育貢献度について、教職員・保護者・生徒の評価はAであった。</p> <p>2)生徒会新聞を発行し、生徒会や各種委員会の活動をPRすることができた。生徒会活動・各種委員会活動について、教職員・生徒の評価はAであった。</p> <p>3)球技大会・城北祭について教職員・生徒・保護者の意見を取り入れ活性化と効率化を図ることができ、教職員・生徒の評価はAであった。</p>		<p>[特別活動課] (評価A)当初の計画についてはほぼ達成することができた。</p>	<p>・城北生の大半が、何らかの部に所属し活動しているのは、素晴らしいことだ。</p> <p>・合唱部はわずか4人ということだが、県で金賞をとった。励みになったことだと思う。</p> <p>・演劇部は練習に、コミュニティセンターを使用しているが、とても礼儀正しく好感もてる。</p> <p>・部活動でも学習でも、もっと地域のコミセンを利用してくれたらいいと思う。それがコミセンのPRにもなる。</p>	<p>[特別活動課]</p> <p>①生徒会活動と各種委員会活動の活性化に取り組む。</p> <p>生徒会がリードして学校行事やボランティア活動の活性化を図る。</p> <p>各種委員会活動を活性化し、生徒が主体的に学校生活に取り組めるようにする。</p> <p>②部活動の活性化を図り、部活動を通してのマナーやモラルの向上を図るために部活動連絡協議会の活動を活性化させる。</p>
	下位組織レベル	活動計画	活動計画の実施状況				
	<p>[特別活動課]</p> <p>1)部活動連絡協議会を開催し、さらなる部活動の活性化を図る。</p> <p>2)生徒会活動についての積極的広報と生徒会活動への理解と協力を促す。</p> <p>3)各種委員会の活性化</p> <p>4)球技大会・城北祭の活性化</p>	<p>[特別活動課]</p> <p>1)全教職員の取り組みにより、部活動の活性化を図ることができた。生徒の健康保持を図ることについては職員会議や全校集会を通じて連絡・指導し、ある程度徹底できたと思われる。教職員が積極的に部活動に参加できるよう配慮することについては、7時間の授業日が週に1日増えた関係で、放課後多忙になり困難になってきている。</p> <p>2)生徒会がリードして学校行事への参加促進活動を行う。また生徒会新聞を発行し、活動を生徒や保護者にアピールする。</p> <p>3)各種委員会活動を活性化し、生徒が主体的に学校生活に取り組めるようにする。</p> <p>4)生徒会役員を中心に準備委員会を組織し、企画運営にあたる。</p>	<p>[特別活動課]</p> <p>1)全教職員の取り組みにより、部活動の活性化を図ることができた。生徒の健康保持を図ることについては職員会議や全校集会を通じて連絡・指導し、ある程度徹底できたと思われる。教職員が積極的に部活動に参加できるよう配慮することについては、7時間の授業日が週に1日増えた関係で、放課後多忙になり困難になってきている。</p> <p>2)生徒会がリードして学校行事への参加促進活動を行う。また生徒会新聞の発行についても当初の予定通りできた。</p> <p>3)各種委員会活動を活性化し、生徒が主体的に学校生活に取り組めるようにすることについては、できた委員会もあったが、あまりできなかった委員会もあった。今後も取り組んで行きたい。</p> <p>4)生徒会役員を中心に城北祭では準備委員会を組織し、企画運営にあたる。</p>				

自己評価				学校関係者評価	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見
	全校レベル	評価指標	評価指標による達成度	総合評価・所見	次年度への課題と改善方策
環境問題の理解と身の回りの環境美化実践および防災意識の啓発	6 安全・環境教育の推進 ・自他の生命や健康・安全を尊重する態度を養い、事故の未然防止に努める。 ・災害発生時に適切な対応ができる防災体制作りを努める。 ・校内環境の美化に努め、公共心や豊かな情操を育成する。	[環境教育課] 1)災害発生時に適切な対応ができるよう、全校あげての防災避難訓練を1回、机下避難訓練を2回実施。 2)新学校版環境 ISO に則り、ゴミの分別を徹底する。 新学校版環境ISO中間報告会での評価A	[環境教育課] 1)防災週間に併せ、防災避難訓練を9月3日(水)に実施。雨天により体育館に避難し、消防署員の方の講話を聞いた。その他、6月5日(木)、11月5日(水)に実施の南海トラフ地震対応訓練に参加し、初期対応訓練(机下避難訓練)を校内実施した。校内に災害避難啓発掲示板を設けて、災害の危険性や避難の仕方などを啓発展示した。 2)職員、環境委員、生徒会を中心に校内美化や環境資源の保護に取り組めた。校内の評価委員会では評価A。	[環境教育課] (評価)A 文部科学省、気象庁、徳島県などが企画した危機管理訓練に参加できた。大がかりな訓練はできていないが、定期的な訓練により基本事項の確認ができた。新学校版環境ISOに関する活動事項について、生徒は協力的に取り組んだ。生徒会役員と環境委員が特に積極的に取り組み啓発ボードの作成、文化祭、体育祭でのゴミ箱設置・管理等をやり遂げた。PTA役員・部活動保護者会だけでなく多数の方が協力的に参加して校内環境が整った。	[環境教育課] 担任からの連絡による周知徹底と意識付け。環境委員によるクラス及び全校集会において直接の呼びかけの徹底。 啓発事項 ①自然災害への対応 特別警報、風雪災害など ②東南海地震への対応 初期避難、防災避難訓練 ③放射能教育 2012年実施開始(テキストを文部科学省が配布済み)が2014年度より一 次改訂を経て新テキストによる授業実施。(総合的な学習などで)
	下位組織レベル	活動計画	活動計画の実施状況		
	[環境教育課] 1)環境委員会(防災クラブ)を中心とした防災活動による意識の啓発 2)学校内外の環境美化 3)環境 ISO の周知徹底を図る。	[環境教育課] 1)環境委員会(防災クラブ)を中心に防災研修会に参加する。また防災掲示板を運営する。 2)クリーンキャンペーンを年間2回実施する。また年間1回、保護者・生徒・職員による除草作業を実施。 3)ゴミの分別や節電・節水・紙の節約を推進する。	[環境教育課] 1)環境委員会を中心に災害避難訓練を実施。今年度は防災センターでの研修に参加した。防災掲示板を西渡り廊下に用意し、地震、台風、風雪等季節に応じて防災啓発した。文化祭では、防災マップ展示をした。 2)5月29日、10月10日にクリーンキャンペーンを実施。 2)8月31日に実施。参加希望者は昨年以上あった。 3)職員、環境委員、生徒会を中心に校内美化や環境資源の保護に取り組めた。新学校版環境ISOに掲げる節水・節電・ゴミ分別では、よい成果が出せた。	・緊急時に生徒のペットボトル入りの水を保管しているとのこと。加茂のコミセンでは、水確保のため井戸とポンプを設置しているので、認知しておいてほしい。 ・小学校では、津波想定で3～4Fに避難する訓練や、子どもたちだけの訓練も行った。また、親への引き渡し訓練も実施している。	

重点課題	自己評価			学校関係者評価		
	全校レベル	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	次年度への課題と改善方策	
運営組織の活性化と教職員研修の充実	全校レベル	<p>評価指標</p> <p>[企画広報課] 1)情報セキュリティ研修を含め、年5回以上の注意喚起を行う。 [コンプライアンス委員会] 1)年間15回以上の啓発・研修を教職員全体を対象に実施 2)相談員体制の確立と周知 3)様々なリスクに対する危機管理体制の確立と周知 [教育相談課] 1)特別支援の対象生徒の指導について、校内で共通理解を図る。 教員の評価A [保健厚生課] 1)教職員対象の救急救命講習会を年1回実施</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>[企画広報課] 1)情報セキュリティ研修を1回実施。また、職員会議等での注意喚起は7回。 [コンプライアンス委員会] 1)様々な機会を通して、啓発・研修の回数を昨年度程度実施することができた。 2)相談員や体制について、確認・周知を徹底するとともに、その活用を進めた。 3)様々なリスクについて、具体的な事例を活用した啓発・研修を行い、危機管理体制の確立に努めた。 [教育相談課] 1)特別支援の対象生徒の指導について、必要のあるときには必ず会議を開き、共通理解を図った。教員の評価A [保健厚生課] 1)救急救命講習会を年1回実施することができた。</p>	総合評価・所見	<p>学校関係者の意見</p> <p>・中学校でも、別室登校等の措置をとる生徒がいる。学校には来られても、通常学級に戻ることは困難だ。 ・徳島市では小中学校からの特別支援生徒を受け入れる「すだち学級」があり、ここに参加すれば出席扱いになる。細やかな連絡も学校にしてくれる。 ・すだち学級のイベントに学校の生徒や先生が参加して距離を縮める。保健室や職員室に来る。グラウンドで遊べる等々、小学校では登校復帰について大変小さいステップを組み、全校体制で生徒を見守るようになっている。 ・全国では悲惨な事件も起こっている。こどものSOSを見逃さない注意が必要だ。 ・教育現場では、いわば生徒一人ひとりのカルテが必要だ。細やかな情報を記録し、次へと引き継いでいく。個人情報面で厳しい面もあるだろうが、高校でも考えてみてほしい。</p>	<p>次年度への課題と改善方策</p> <p>[企画広報課] 従来通り研修を行うとともに、日常的な注意喚起を充実させる。 [コンプライアンス委員会] リスクの軽減のためにも、職場でのコミュニケーションの推進を図る。 [教育相談課] 来年度も研修を行い、支援のための共通理解を図る。 [保健厚生課] 来年度も全員の先生の受講をめざす。</p>
	下位組織レベル	<p>活動計画</p> <p>[企画広報課] 1)各学期、2回程度の注意喚起を行う。 [コンプライアンス委員会] 1)年2回の推進期間および適切な機会を随時設けて、各方面の内容をバランスよく研修・啓発を図る。 2)相談体制を整えて職員へ周知し、全体でのサポート体制をつくる。 3)様々な危機管理について、周知徹底するよう具体的な事例に基づく研修を行う。 [教育相談課] 1)特別支援を要する生徒へのケアの確立 [保健厚生課] 1)教職員対象の救急救命講習会の充実</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>[企画広報課] 1)情報セキュリティ研修は5月14日(月)実施。講師:藤村裕一氏 また、学期節目の職員会議等で注意喚起を行う。 [コンプライアンス委員会] 1)夏・冬の推進期間をはじめ、職朝などの機会を通して、こまめな啓発や声掛けを行った。 2)相談員や体制について教職員に確認・周知の徹底を図るとともに、その活用の促進を図った。 3)様々なリスクに対する研修を、具体的な事例に基づき実施した。 [教育相談課] 1)教育相談研修会は、10月27日(月)実施。講師:廣島慎一氏 発達障害の特性と理解について講演いただき、研修した。 2)丁寧な支援を目指し、確実に実施した。 [保健厚生課] 1)5月14日(火)15:00~16:30、救急処置に対する意識を深め、技術の習得に努めるために、徳島東消防署救助救命係の方々を講師に迎え、AEDを用いた心肺蘇生法の講習会を実施した。</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>・中学校でも、別室登校等の措置をとる生徒がいる。学校には来られても、通常学級に戻ることは困難だ。 ・徳島市では小中学校からの特別支援生徒を受け入れる「すだち学級」があり、ここに参加すれば出席扱いになる。細やかな連絡も学校にしてくれる。 ・すだち学級のイベントに学校の生徒や先生が参加して距離を縮める。保健室や職員室に来る。グラウンドで遊べる等々、小学校では登校復帰について大変小さいステップを組み、全校体制で生徒を見守るようになっている。 ・全国では悲惨な事件も起こっている。こどものSOSを見逃さない注意が必要だ。 ・教育現場では、いわば生徒一人ひとりのカルテが必要だ。細やかな情報を記録し、次へと引き継いでいく。個人情報面で厳しい面もあるだろうが、高校でも考えてみてほしい。</p>		

平成26年度 徳島県立城北高等学校 学校評価 総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価		
		評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	次年度への課題と改善方策	
学校外との交流・連携やHPIによる広報活動のさらなる活性化とボランティア活動を支援する校内組織づくりの推進	全校レベル	<p>評価指標</p> <p>[学校評価委員会] 1)保護者学校評価アンケートの回収率70%以上 [総務課] 1)各種PTA活動を活性化し、広報活動を充実させる。 2)円滑な業務遂行。 [企画広報課] 1)ホームページを月15回以上更新する。 [特別活動課] 1)地域とのボランティア活動に延べ人数100名以上の参加。ボランティア活動についての生徒の評価A</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>[学校評価委員会] 1)保護者アンケートの回収率は77.8%となり、昨年より5ポイントアップできた。 [総務課] 1)研修、活動内容には保護者の意見を取り入れ改善した。 2)各会議、行事を円滑に遂行できた。 [企画広報課] 1)ホームページの更新は月平均20回以上になった。閲覧者数も300人台から700人台に増えた。 [特別活動課] 1)本年度、1月末現在でボランティアには、延べ336名の参加があり積極的に行った。</p>	<p>総合評価・所見</p> <p>[学校評価委員会] (評価)A 保護者アンケートの回収率が伸びた。評価表等の見直しができた。 [総務課] (評価)B 会議・研修会の回数は昨年と同じ。出席率は昨年と同じか少し下回った。 1) [企画広報課] (評価)A ホームページの更新回数及び閲覧者数を大きく伸ばせた。 [特別活動課] 生徒・保護者・職員共にボランティアに関する評価A</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>・城北生の地域イベントへのボランティア参加は、大変ありがたい。加茂の餅つき大会では、大変な作業の主力になって働いてくれている。 ・PTA活動では、多少理事会への参加が少なくなったようだが、運営自体にあまり支障はなかった。会議開催連絡の方法等工夫してほしい。</p>	<p>次年度への課題と改善方策</p> <p>[学校評価委員会] 実情に対応した評価の在り方を、簡略化もふくめて検討する。 [総務課] 各会議や研修会の案内が確実に保護者に届くようにする。 [企画広報課] 多くの出来事を迅速に載せ、リポートしてもらえる魅力あるホームページにしたい。また、多くの職員が作成に関われるように努めたい。 [特別活動課] ボランティア活動については、さらに活性化されるように通して取り組んでいきたい。</p>
	下位組織レベル	<p>活動計画</p> <p>[学校評価委員会] 1)学校全体で評価目標の見直し・作成を行い、取り組みの充実を図る。 [総務課] 1)PTA活動における各種連絡調整や企画提案を行う。 2)城北祭や卒業式での渉外業務を行う。 3)各種国際交流関係の広報や連絡調整にあたる。 [企画広報課] 1)ホームページ更新について、部の顧問や課長を支援し、より早い情報の提供を行う。 [特別活動課] 1)全校生及び教職員にボランティア活動への参加を積極的に呼びかける。 2)生徒会新聞を活用する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>[学校評価委員会] 1)学校評価アンケートを整理・改訂し、併せて評価表の見直しも行った。 [総務課] 1)4月17日理事会、5月10日総会、5月23日理事会、1月8日理事会 2)9月6日文化祭、9月8日体育祭、3月1日卒業式 3)11月12日より21日までドイツ、ニーダーザクセン州との生徒間交流事業 [企画広報課] 1)ホームページ更新の手続きを簡略化した。部活動、学校行事の情報はいずれも網羅するように掲載した。「保護者」向けの情報を多くした。 [特別活動課] 1)生徒及び職員にボランティア活動への参加を積極的に呼びかけることがほほできた。 2)生徒会新聞にはよらず、ボランティア活動の募集がある度に呼びかけをした。</p>	<p>総合評価・所見</p> <p>[学校評価委員会] (評価)A ホームページの更新回数及び閲覧者数を大きく伸ばせた。 [特別活動課] 生徒・保護者・職員共にボランティアに関する評価A</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>・城北生の地域イベントへのボランティア参加は、大変ありがたい。加茂の餅つき大会では、大変な作業の主力になって働いてくれている。 ・PTA活動では、多少理事会への参加が少なくなったようだが、運営自体にあまり支障はなかった。会議開催連絡の方法等工夫してほしい。</p>	<p>次年度への課題と改善方策</p> <p>[学校評価委員会] 実情に対応した評価の在り方を、簡略化もふくめて検討する。 [総務課] 各会議や研修会の案内が確実に保護者に届くようにする。 [企画広報課] 多くの出来事を迅速に載せ、リポートしてもらえる魅力あるホームページにしたい。また、多くの職員が作成に関われるように努めたい。 [特別活動課] ボランティア活動については、さらに活性化されるように通して取り組んでいきたい。</p>